



地元を撮り続けて50年

かわはらのぶゆき
川原 信幸 さん(73)

撮影時に『笑って』と言わない コミュニケーションから生まれる 笑顔の写真が周りの人も笑顔にする

「○○さん、こんな素敵な笑顔をするんだ」感嘆の声とともに声の主も笑顔になる。

今年8月末に市役所などで開催された『100枚の写真展』。多くの来場者にぎわい、その様子を嬉しそうに見つめているのが、写真展の主催者川原信幸さん、73歳。

川原さんは高校卒業後、知人の紹介で、北九州市門司区にある写真館で修行。4年後に帰省し、23歳で小林に写真館を立ち上げた。

「あの時の知人の強い勧めや自分の決断がなかったら、写真とは縁の無い人生だったかもしれないね」

結婚式や家族写真など、いろいろな人の人生の節目を撮り続けてきた。精力的に仕事を続けてきた川原さんだが、3年前に病気により療養を余儀なくされた。

「周りの人の心配や励ましの声で、人との縁や地域の支えのありがたさを、より一層感じました」
回復した川原さんは、創

業50年を節目ととらえ、地域への恩返しを決意。社会福祉協議会の協力も得ながら、60歳以上の人の無料撮影を募集。応募者の中には施設入所者や、結婚後一度も写真を撮っていない夫婦など、写真を撮る機会が少なくなつた人も多かつた。

「撮影時に『笑って』と言つたことは一度もありません」と話す川原さん。モデルの一番良い表情を思い浮かべながら、コミュニケーションで、その瞬間を引き出すのだ。

写真展には、撮影された本人や家族のほか、友人や入所する施設の職員も訪れた。自然な笑顔の写真は見る人も笑顔にした。

撮影される人や、その先にいる周りの人の笑顔を思いながら、川原さんは今日もシャッターを切る。



写真①撮影前にモデルと交流する川原さんは何よりもコミュニケーションが大切だと考える
②たくさんの人の思いとともに飾られた写真展の様子

